

第 105 回シニアのための知恵袋講座

ご存知ですか？

脳梗塞などの後遺症の一つである「失語症」

～ 失語症の特徴を知って、失語症の方との

コミュニケーション方法を身につけてみませんか！！～

私達は、日頃、家族や友人等との会話を何不自由なく楽しんでいます。
ところが、ある日突然、脳梗塞などの病気や交通事故などの頭部の外傷によって、「失語症」になってしまうことがあります！

失語症は、単に言いたい言葉が出にくくなるだけでなく、聞いて理解することや、文字を読んだり書いたりする事も難しくなる言語障害です。

症状が目に見えないので、分かりづらく認知症や精神障害と間違われることが、しばしばあります。あなたの近くに、もし失語症の方がいたとしたら・・・ 失語症について、ご理解頂けたらと思います。

講師：金浜 衣妃子 氏（NPO 法人 失語症サロン いーたいむ 代表）

日時：平成 26 年 10 月 30 日(木) 13:30～15:00

場所：シーズネット研修室 2 階

参加費：300 円（会員外 500 円）

申込期限：平成 26 年 10 月 27 日(月)まで 電話で事務局へ

主催：NPO 法人 シーズネット

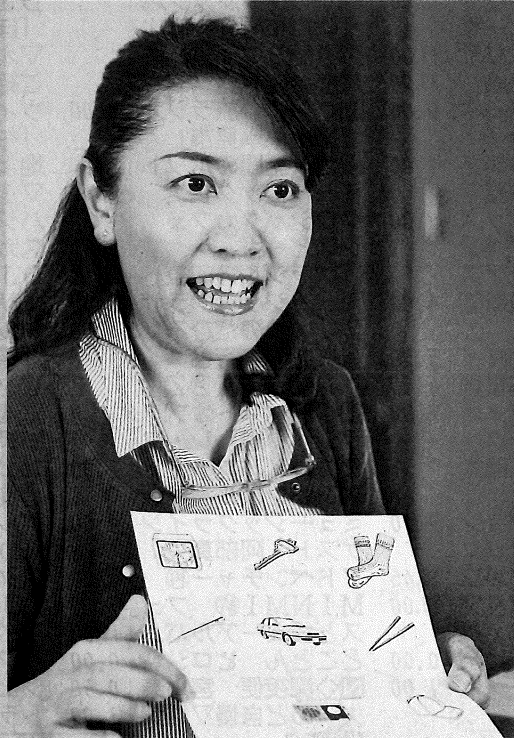
札幌市北区北 10 条西 4 丁目 1 番地 SCビル 2 階

電話 011-717-6001

配布資料の準備及び座席確保の都合がありますので、参加を希望する方は、必ず電話で申し込みをお願い致します。また、キャンセル待ちの方もおりますので、申し込み後に参加が出来なくなった場合は、必ずその旨ご連絡をお願い致します。

失語症サロン5年半 笑顔が喜び

脳卒中や交通事故のけがなどによる後遺症で、自分の考えや気持ちと言葉で表現しづらくなる失語症。高齢化社会で、失語症の人は増える傾向にある。札幌市豊平区の金浜衣妃子さん(50)は「時計を『とかい』と言いつたり、言葉が出なくなったり…。家族や知人にいら立たれてしまい、自分を責めて引きこもる人も」と気遣う。患者が周囲とコミュニケーションシ



ョンを図ることができるようになる訓練する場として、道内でも珍しい「失語症サロン」を札幌市内で開設して5年半近くたつ。レッスンは、個人や3〜4人のグループで、カフェや利用者の自宅などで行う。参加者は主に50〜60代。ゲームや自己紹介を通して、思いを口にしてみよう。言葉が出ない時には「なかなか。なかなか」とおどけて、焦らず考えるよう促す。言い間違いがあれば「もう一回、頑張ってください」。気さくな受け答えに、利用者から笑みがこぼれる。

それでも、思うように成果が出ずに悩む人もいる。「だから『名前がうまく言えた』などという笑顔を見るのが最高の喜び」。失語症を、より多くの人に理解してほしいと、全道各地で出張講座も開いている。美唄市生まれ。高校卒業後10年間、バスガイドとして勤務。言語聴覚士の資格を取り、札幌の病院で働いた後に独立した。年に2回、サロンの利用者とはバス旅行に出かける。「ゲームの司会役として、みなさんを盛り上げます」(藤田香織里)

道央ひと

2014年(平成26年)8月25日(月曜日)